



## 特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

### 農業高校と連携した共生・共育

#### —高校生と行う野菜作りの共同授業—

#### <学校の概要>

平成 21 年 4 月、静岡県東部の東部地区にある農業高等学校内に開校した高等部分校である。共生・共育を目的に、小学校や高等学校の教室を利用して開校した分校としては県内 6 番目であり、実業高校内の分校としては県内初となる学校である。

学校教育目標「子どもの持つ能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する」を受け、目指す学校像「共に育てる自立と輝き」の一つに「共生・共育の理念を生かした教育を高等学校や地域と共に実践する学校」を位置付け、共生・共育を推進している。生徒（1 年 8 人、2 年 16 人、3 年 10 人、計 34 人）は、周辺の 3 市 1 町から電車、路線バス、徒歩等で通学している。

農業高校と連携した共同授業、交流授業、行事交流、地域と結び付いた出張作業や地域交流など、農作業を中心にした共生・共育の実践で成果を上げている。

#### <農業高校との共生・共育>

##### ◇共生・共育の歴史

農業高校との共生・共育は、平成 21 年 4 月の分校の開校を機に共同授業という形で始まり、翌年には分校生が農業高校の全学科全コースの授業に参加する交流授業に拡大した。平成 13 年度に始まった県立肢体不自由養護学校と農業高校との連携授業、平成 19 年度からの県立知的障害特別支援学校と農業高校との連携授業や共同授業の積み重ねが、現在の高等部分校と農業高校との共生・共育の基盤となっている。

##### ◇共同授業の目標

共生・共育の活動の中心は、共同授業である。共同授業は、従来型の特別活動時の交流ではなく、両校の生徒が共に取り組むことができる農業実習等の専門科目の授業において交流を行うことであり、この授業によって両校の生徒が相互理解を深めつつ、相互の課題等を学び合っている。

共同授業における分校の目標は、「同世代の仲間との身近なかかわりを通して、コミュニケーション力を高め、社会性を養う」である。一方、農業高校の目標は、「教えることによって、専門的な知識を自分のものにする『確かな学力』を身につける」「コミュニケーション能力の育成」、「企画力の育成」である。

開校以来、農業実習の学習を相互理解の場として位置付け、共生・共育の目標達成に向けた授業実践を続けている。



ライフデザイン科セラピーコース生徒と進める「共同授業」



## ＜共同授業の内容＞

共同授業は、分校の「農業」の授業と農業高校ライフデザイン科セラピーコースの「ユニバーサル園芸」の授業とが同時展開する形で実施されている。

### ◇分校1年生

セラピーコース2年生とスイカの栽培や花壇苗（パンジー）の育成に取り組み、分校生は畝作り・マルチシート張りから、スイカ苗の定植、摘芯、蔓の誘引、人工受粉、収穫までの知識や技能を、農業高校生に教わりながら一緒に作業活動を行っている。

### ◇分校2年生

セラピーコース3年生とトマトや冬野菜の栽培・漬物作りに取り組んでいる。事前授業として農業高校生が自作した資料を使ってトマトの管理方法について学んだ後、誘引のための支柱立て、芽取、収穫まで合同で行っている。

### ◇分校3年生

セラピーコース3年生とパンジーの鉢植え作りを行っている。分校3年生は、陶芸作業の中で身に付けた鑄込み成型の工程をセラピーコース3年生に教えながら一緒に植木鉢を作り、パンジーの苗を植えて近隣の施設に展示している。分校生も教える側に立つことにより、社会自立に向けて自信を深める機会となっている。

## ＜共同授業の成果＞

共同授業終了後にその都度、行ってきたアンケートの集計結果や感想などから、両校生徒の成長が確認できる。

### ◇分校

分校1年生、2年生は、共同授業において農業高校の2年生、3年生に農業に関する知識や技能を教してもらった形をとっている。高校生が自ら作成したプリントを使い、事前学習を行って共同授業に臨むことで、鍬や移植ごてなどの道具の名称、畝や播種といった農業に関する専門用語を理解し、身近な高校生から直接、教えてもらった技術を日々の農園管理で活かしている。授業を通して高校生から教えてもらうことへの喜びや学んで分かる喜びを感じると共に、他者への挨拶が身に付き、分からないことは質問する態度が身に付いてきている。年間を通して同じメンバーで活動を行っているため、互いを認め合う心も育ってきている。また、分校3年生にとって、自分達が学んできた陶芸を農業高校生に教え、植木鉢と一緒に作る活動は、学んだことを伝える喜びを実感する場となっており、生徒の大きな自信につながっている。

### ◇農業高校

日ごろの農業学習の成果を分校生に教え、一緒に野菜作りを行う共同授業を実践する中で、育てた作物を収穫するときの喜びは、分校生徒も自分たちと変わらないことに気付くとともに、「教えることにより専門的な知識を自分のものにする『確かな学力』を身につける」という共同授業の目標が達成されつつある。

教員自身も共同授業や交流活動を運営することによって、分かりやすい授業や楽しい授業とは何かという基本的な問いに立ち返ることができており、高校の特別支援教育の充実につながっている。